

表5-27 利用経験の有無別「一時預かりの保育サービスの認知」 下段:割合(%)

利用経験	一時預かりの保育サービスの認知				
	よく知っている	少し知っている	あまり知らない	全く知らない	未回答・不明
利用経験あり n=516	171 33.1	267 51.7	70 13.6	8 1.6	0 0.0
利用経験なし n=298	36 12.1	145 48.7	71 23.8	45 15.1	1 0.3
全 体	207	412	141	53	1

表5-28 利用経験の有無別「子育てに対する不安」 下段:割合(%)

利用経験	子育てに対する不安				
	よくある	ときどきある	あまりない	全くない	未回答・不明
利用経験あり n=516	116 22.5	286 55.4	99 19.2	11 2.1	4 0.8
利用経験なし n=298	46 15.4	175 58.7	67 22.5	7 2.3	3 1.0
全 体	162	461	166	18	7

(4) 考察

本調査の結果から、保護者が日常は家庭で子育てをしている場合にも子どもを一時的に預けたいというニーズは高いことが改めて示された。しかし、こうしたニーズを持ちながらも実際に一時預かりの保育サービスを利用した経験のない人もいる。配偶者及びその他の家族などインフォーマルなサポート資源に頼ることができるために保育サービスを利用しなくてもよい場合も多いと推察されるが、一方で具体的な預け先やその選択肢の数から、預けたいと思いつつも預け先が十分に確保されておらず、かつ保育サービスを利用した経験がないという保護者も少なからず存在することが窺われる。

特に、「急用」や「買い物・用事」と比較して、保護者の「リフレッシュ」を目的に預ける場合には、預け先やその選択肢が全体的にやや限られることが示されている。そうした中で、パイロット事業は、「リフレッシュ」目的でも比較的使いやすくと受けとめられている可能性が示唆された。このことはパイロット事業独自の特色であり、保育所や認可外保育施設、ファミリーサポートセンターなどパイロット事業以外の一時預かりの保

育サービスを含めたいずれの預け先とも異なっている。また、一時預かりの保育サービスを利用することによる利用者の変化として、「精神的なゆとり」や「子どもを改めてかわいいと思う」「成長を実感する」などが多く選択されていた。これらの結果をあわせてふまえ、利用者が上手に気持ちを切り替えたり、自分の子どもと改めて向き合うなど、自らの子育てをよりよいものとするために一時預かり事業を役立てるという意識を今後さらに積極的に伝えていく意義があると考えられる。

さらに、「子どもを預けることについての意識」からは、実際の利用経験の有無に関わらず多くの保護者が子どもへの良い影響を期待・評価していた。特に一時預かりの保育サービス利用経験者は、そのほとんどが「良い影響があると思う」と捉えている。利用による子どもの変化についても、「他児に興味を示す」「遊具で遊ぶ」といった子どもの発達に関わる項目が多く選択されていた。地域の同世代の子どもと遊ぶ機会の少ない家庭において、子どもの健やかな育ちを保障するという観点からも、こうした保育サービスの意義は認められると同時に、保育の質の確保が不可欠であると

言える。

一方で、「子どもを預ける」ということについて、「かわいそう」「不安」「初めての人や場所は苦手」と感じている人も多かった。特に利用経験のない人は、実際に利用したことのある人と比較して預けることに不安を感じる割合が高く、こうした不安をどのように軽減していくかということは、今後の利用を促進する上での大きな課題のひとつである。これをふまえ、次項では子どもを預けることに対する抵抗感について検討する。

さらに、利用経験の有無と一時預かりの保育サービスに関する情報の把握との間には関連が見られた。当然ではあるが、保護者への情報提供の必要性、特に自ら意識的に情報収集をしない保護者や情報を得にくい環境にある保護者が日常的に接触しやすい情報提供の手段を講じることは、ニーズがあるにもかかわらず利用しない人に対して、今後一時預かりの保育サービスの利用を促進していく上でも、非常に重要であると言える。

子育てに対する不安が利用経験のある人の方が高い割合で見られたという結果及び「自分で育てたい」という意識を持つ人が全体的に多いという結果は、一時預かり事業の促進及び実際の保育場面において、支援を提供する側がこうした保護者の思いを十分に汲み取る必要性を示している。ニーズを持って支援の場に現れた人をどのように受けとめれば継続的に関わっていけるのかということも、今後利用を促進する上では欠かせない課題であろう。

3. 一時預かりの保育サービスの利用を促進するための条件

(1) 一時預かりの保育サービスに求める条件

一時預かりの保育サービスについて、利用するとしたら1時間あたりどのくらいの利用料金を希望するか尋ねたところ、有効回答の得られた683件において、平均は539.2円(SD=265.2)、レンジは0-3000円であった。最も多かった回答は「500円」で、295名にのぼった。

また、立地条件(表5-29)としては「徒歩圏内」が最も多く、過半数を占めていた。次いで、「駅やバス停近く」という回答が多かった。

さらに、情報・システム・保育環境・子ども・保育者のカテゴリごとに計29項目を挙げて、「一時預かりの保育サービスを利用するなら、どのようなところを利用したいですか」と尋ね、あてはまる項目をすべて選択するよう求めた。その上で、これらの選択肢のうちで最も大切にすること上位3つまでを尋ねた。結果を表5-30に示す。条件としては全体的に「短時間・長時間・土日祝日でも利用可能」「当日受け入れ可能」「年齢制限なし」など柔軟で便利なシステムを望む回答が多いが、最も大切にすることとしては、こうしたシステムに関するのではなく、「清潔・安全への配慮が行き届いている」「子どもが楽しく過ごせる」といった保育の環境や内容の質が重視されている。また、「保育者のきめ細かい対応」「送迎時に子どもの様子をきちんと報告してくれる」といった項目を選択する割合も高かった。

表5-29 立地条件

	件数	割合(%)
徒歩圏内	444	53.6
駅やバス停近く	127	15.3
デパート・商店街内	39	4.7
子どものきょうだいの用事	26	3.1
自分の用事	61	7.4
その他	16	1.9
不明・未回答	32	3.9
複数選択	83	10.0
総数	828	100.0

表5-30 利用の選択基準

	利用したい 保育サービス		最も大切にすること	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)
＜情報について＞				
評判がよい	665	80.3	87	10.5
多様な手段で情報を公開	463	55.9	25	3.0
利用前に丁寧な説明あり	593	71.6	49	5.9
＜システムについて＞				
短時間でも利用可能	667	80.6	61	7.4
長時間でも利用可能	564	68.1	49	5.9
土日祝も利用可能	578	69.8	64	7.7
当日受け入れが可能	697	84.2	135	16.3
定員制限なし	194	23.4	10	1.2
年齢制限なし	317	38.3	18	2.2
初回は低額で利用可能	122	14.7	7	0.8
体験利用がある	301	36.4	8	1.0
市が関わっている	366	44.2	32	3.9
病児病後児も利用可能	313	37.8	23	2.8
障害児も受け入れている	144	17.4	3	0.4
＜保育環境について＞				
遊具・玩具が豊富	393	47.5	15	1.8
清潔安全への配慮	771	93.1	495	59.8
子どもが慣れた場所	269	32.5	9	1.1
子どもの様子がわかる	534	64.5	30	3.6
保護者が他の人と交流	163	19.7	1	0.1
＜子どもについて＞				
子どもが楽しく過ごせる	750	90.6	405	48.9
子どもが他児と遊べる	631	76.2	36	4.3
子どもの成長促す	576	69.6	39	4.7
子どもが楽しみにする	585	70.7	53	6.4
＜保育者について＞				
個別に細やかな対応	612	73.9	269	32.5
子どもが慣れた保育者	448	54.1	50	6.0
子どもの不安受け止め	589	71.1	108	13.0
送迎時に様子を報告	723	87.3	211	25.5
育児相談ができる	418	50.5	18	2.2
育児の大変さを理解	444	53.6	28	3.4
＜その他＞				
記述・不明・未回答	31	3.7	61	7.4
総数	828	100.0	828	100.0

(2) 利用経験の有無による求める条件の違い

利用経験の有無によって、一時預かりに求める条件の違いを比較するため、クロス集計を行った。「立地条件」については特に顕著な傾向の違いは

見られなかったが、「利用の選択基準」の内容とその中で特に重視することにおいて一部に差が見られた。これら特に差の見られた項目について結果を表5-31及び表5-32に示す。

表5-31 利用経験の有無と利用の選択基準 下段:割合(%)

利用経験	情報公開	長時間利用	初回低額料金	土日祝利用	当日受け入れ	体験利用	病児・病後児
利用経験あり n=516	280 54.3	374 72.5	49 9.5	385 74.6	428 82.9	158 30.6	218 42.2
利用経験なし n=298	182 61.1	187 62.8	73 24.5	191 64.1	266 89.3	143 48.0	94 31.5
全 体	462	561	122	576	694	301	312

利用経験	様子が見える	保護者の交流	楽しみにする	細やかな対応	慣れた保育者	不安受け止め
利用経験あり n=516	314 60.9	85 16.5	389 75.4	371 71.8	303 58.7	358 69.4
利用経験なし n=298	218 73.2	78 26.2	193 64.8	240 80.5	145 48.7	229 76.8
全 体	532	163	582	611	448	587

表5-32 利用経験の有無と大切にすること 下段:割合(%)

利用経験	大切にすること												
	評判	利用前説明	短時間利用	長時間利用	土日祝利用	当日受け入れ	清潔安全	楽しい場	楽しみにする	細やかな対応	慣れた保育者	不安受け止め	送迎時報告
利用経験ありn=516	52 10.1	27 5.2	46 8.9	32 6.2	51 9.9	63 12.2	306 59.3	264 51.2	37 7.2	159 30.8	38 7.4	65 12.6	139 26.9
利用経験なしn=298	35 11.7	21 7.0	15 5.0	17 5.7	12 4.0	70 23.5	189 63.4	139 46.6	16 5.4	110 36.9	12 4.0	42 14.1	71 23.8
全 体	87	48	61	49	63	133	495	403	53	269	50	107	210

*複数選択(3つまで)あり。*単純集計で割合が5%未満の項目は除いた。

(3) 考察

利用料金及び立地条件については、おおむね保育所による一時保育を基準に、同等の条件を希望する保護者が多いことが推察される。加えて、利用の時間や当日受け入れなど、システムに関する希望が多く選択された結果から、一時預かり事業には保護者にとって柔軟で便利であり使いやすいサービスであることが期待されていると言える。こうした希望は、昨年度の自治体や運営主体へのヒアリング調査で挙げられた利用者の要望

の傾向とも一致している。

しかし一方で、今回の調査結果からは、保護者が実際に「最も大切にしていること」はこうした利便性に関するのではなく、保育の環境や保育内容の質であることが示された。「知り合いの間で評判がよい」が80.3%という高い割合で選ばれたことから、保護者が利用にあたって子どもの様子や保育従事者の対応に気を配っていることが窺われる。

また、一時預かりの保育サービス利用経験の有

無別に条件を比較した結果から、利用したことのない人が特に望むことの一つは、「情報公開」「体験利用」「様子が見えること」のように、「実際にどのような保育をしているかわかること」であると言える。なお、「情報公開」に関しては利用回数が増えるに従いこうした条件はあまり選択されなくなる（1回：63.3%、2～4回：60.3%、5～9回：47.9%、10回以上：53.7%）。

さらに、「保育者によるきめ細やかな対応」「子どもの不安の受けとめ」「保護者の交流」も同様に、利用経験のない人が比較的多く選択している。こうしたことから、一時預かりの保育サービスを実際に利用するまでは、子どもだけでなく保護者自身の不安や保育者・他の保護者との関係などにも比較的関心が寄せられる傾向が強いと考えられる。

一方、「長時間利用」「土日祝日利用」「病児・病後児の受け入れ」などシステムに関する選択肢の他、「子どもが楽しく過ごせる（表中の「楽しい場）」「子どもが楽しみにする」「子どもが慣れている保育者がある」については、利用経験のある人の方が割合が高い。さらに、利用頻度ごとに傾向を捉えると、「他児と遊べる」は回数を重ねるとより多く選択されるようになっている（「他児と遊べる」1回：69.4%、2～4回：75.6%、5～9回：81.2%、10回以上：81.0%）。

以上のことから、一時預かりの保育サービスの利用にあたって、最初は利用者と保育者の関わりが中心となるが、実際に利用する中で、より柔軟な利用を求めるだけでなく保育内容など子どもの立場からの視点を持つようになっていくと言える。保育の質の確保はもちろんのこと、情報提供に加えて保育者との信頼関係を築くことが、利用したこ

とのない人の利用を促し、また利用経験の少ない人を継続的な利用につなげていくために必要である。

4. 子どもを預ける抵抗感について

（1）子どもを預ける抵抗感について

「あなたは一時預かりの保育サービスを利用することに抵抗を感じますか」とたずねたところ、表 5-33 のように「強く感じる」というものは非常に少なく、「やや感じる」34%、「あまり感じない」42%、「まったく感じない」21%という結果となっている。また、表 5-34 のように、パイロット事業利用者調査よりも、健診調査における子どもを預ける抵抗感の方が高い割合を示している。一時預かりの保育サービス利用経験の有無では、利用経験なしの方が子どもを預ける抵抗感が高くなる傾向にあるものの、一時預かりの保育サービスを利用していても、子どもを預ける抵抗感が高いものも半数近く見られた（表 5-35）。

次に、子どもを預ける抵抗感と一時預かりの保育サービスに対する意識について、クロス集計を行った（表 5-36～39）。どの項目においても、子どもを預ける抵抗感が高い群は、子どもに良い影響があるとは考えない傾向にあり、むしろ「子どもがかわいそうだと思う」「子どもに悪影響を及ぼすのではないかと思う」といったネガティブな評価や、「子どもを預けるのが不安だ」「そもそも一時預かりの保育サービスについてよく知らない」といった不安や理解の少なさを示す傾向にあった。また「子どもはできる限り自分の手で育てたいと思う」といった親としての役割意識の強さを示すものも多くみられた。さらに「利用について、実際に批判的なことを言われたことがある」という項目については、子どもを預ける抵抗感をまったく感じない群において、「全くあてはまらない」と答える割合が高かった。

表5-33 子どもを預ける抵抗感

	件数(割合%)
強く感じる	14(1.7)
やや感じる	283(34.2)
あまり感じない	350(42.3)
まったく感じない	172(20.8)
未回答・不明	9(1.1)
総数	828(100.0)

表5-34 調査実施場所別子どもを預ける抵抗感 下段:割合(%)

調査実施場所	子どもを預ける抵抗感				
	強く感じる	やや感じる	あまり感じない	全く感じない	未回答・不明
パイロット事業利用者調査 n=470	4 0.9	102 21.7	226 48.1	132 28.1	6 1.3
健診調査 n=358	10 2.8	181 50.6	124 34.6	40 11.2	3 0.8
全 体	14	283	350	172	9

表5-35 利用経験別子どもを預ける抵抗感 下段:割合(%)

調査実施場所	子どもを預ける抵抗感				
	強く感じる	やや感じる	あまり感じない	全く感じない	未回答・不明
利用経験あり n=515	3 0.6	129 25.0	239 46.3	141 27.3	4 0.8
利用経験なし n=299	11 3.7	149 50.0	109 36.6	25 8.4	4 1.3
全 体	14	278	348	166	8

表5-36 子どもを預ける抵抗感別「子どもに良い影響があると思う」 下段:割合(%)

子どもを預ける抵抗感	子どもに良い影響があると思う				
	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	未回答・不明
強く・やや感じる n=297	28 9.4	199 67.0	61 20.5	6 2.0	3 1.0
あまり感じない n=350	94 26.9	214 61.1	38 10.9	1 0.3	3 0.9
全く感じない n=172	107 62.2	56 32.6	9 5.2	0 0.0	0 0.0
全 体	229	469	108	7	6

表5-37 子どもを預ける抵抗感別「子どもがかawaiiそうだと思う」 下段:割合(%)

子どもを預ける抵抗感	子どもがかawaiiそうだと思う				
	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	未回答・不明
強く・やや感じる n=297	30 10.1	176 59.3	82 27.6	9 3.0	0 0.0
あまり感じない n=350	4 1.1	103 29.4	202 57.7	41 11.7	0 0.0
全く感じない n=172	1 0.6	23 13.4	75 43.6	72 41.9	1 0.6
全 体	35	302	359	122	1

表5-38 子どもを預ける抵抗感別「子どもを預けるのが不安だ」 下段:割合(%)

子どもを預ける抵抗感	子どもを預けるのが不安だ				
	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	未回答・不明
強く・やや感じる n=297	60 20.2	164 55.2	57 19.2	15 5.1	1 0.3
あまり感じない n=350	5 1.4	119 34.0	180 51.4	46 13.1	0 0.0
全く感じない n=172	2 1.2	16 9.3	55 32.0	97 56.4	2 1.2
全 体	67	299	292	158	3

表5-39 子どもを預ける抵抗感別「子どもはできる限り自分で育てたいと思う」 下段:割合(%)

子どもを預ける抵抗感	子どもはできる限り自分で育てたいと思う				
	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	未回答・不明
強く・やや感じる n=297	120 40.4	135 45.5	41 13.8	1 0.3	0 0.0
あまり感じない n=350	80 22.9	209 59.7	55 15.7	6 1.7	0 0.0
全く感じない n=172	26 15.1	85 49.4	43 25.0	17 9.9	1 0.6
全 体	226	429	139	24	1

(2) 子どもの変化と子どもを預ける抵抗感

子どもを預ける抵抗感と子どもの変化について、クロス集計を行なったところ、子どもを預ける抵抗感が高い群は、「以前より、甘えるようになった」「疲れた様子が見られた」「よく泣くようになった」「体調を崩した」など、ネガティブな変化があったととらえる傾向にあった。一方、子どもを預ける抵抗感が低い群は、「遊具で楽しく遊べるようになった」「保育者になつくようにな

った」「他の子どもに興味を示すようになった」「子ども同士で遊べるようになった」「保育中のことを、後でよく話すようになった」「夜よく眠るようになった」「できなかったことができるようになった」など、子どもにポジティブな変化があったととらえる傾向にあった。「夕食をたくさん食べるようになった」については、あまり差はみられなかった(表5-40)。

表5-40 子どもを預ける抵抗感別子どもの変化 下段:割合(%)

子どもを預ける抵抗感	変化なし	遊具遊ぶ	保育者になつく	他児に興味	他児と遊ぶ	後で話す	食欲
	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
強く・やや感じる n=297	32 24.2	30 22.7	30 22.7	41 31.1	29 22.0	20 15.2	10 7.6
あまり感じない n=350	39 16.3	80 33.5	91 38.1	117 49.0	86 36.0	54 22.6	13 5.4
全く感じない n=172	22 15.6	69 48.9	65 46.1	75 53.2	62 44.0	36 25.5	15 10.6
全 体	93	179	186	233	177	110	38

子どもを預ける抵抗感	良眠	成長	甘え	よく泣く	疲れ	体調不良	その他
	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
強く・やや感じる n=297	14 10.6	18 13.6	33 25.0	8 6.1	28 21.2	13 9.8	21 15.9
あまり感じない n=350	44 18.4	66 27.6	38 15.9	12 5.0	33 13.8	17 7.1	22 9.2
全く感じない n=172	33 23.4	56 39.7	10 7.1	1 0.7	7 5.0	4 2.8	15 10.6
全 体	91	140	81	21	68	34	58

(3) 利用者自身の変化と子どもを預ける抵抗感
子どもを預ける抵抗感と利用者自身の変化（以下、自身の変化）について、クロス集計を行なったところ、子どもを預ける抵抗感の高い群は「子どもと離れることに不安が強くなった」ととらえるものが多かった。一方、子どもを預ける抵抗感が低い群は、「時間を有効に使えるようになった」「地域に頼れるところがあると思えるようになった」「精神的な「ゆとり」が持てるようになった」「子どもの成長を感じる事ができた」「困った時に、相談する人ができた」などを選択するものが多くみられた。

特に差がみられない項目として、「特に変化はない」「迎えに行った時、改めて子どもをかわいいと思えた」「ほかの子どもを見ることによって、子育てに安心感がもてた」「保育者と子どものことを話すことができた」「ほかの保護者と話す機会が増えた」「地域に新しい友だちができた」「預け先に不満が残った」があげられる。中でも「迎えに行った時、改めて子どもをかわいいと思えるようになった」と思うものはどの群においても6割を超えることが明らかとなった（表5-41）。

表5-41 子どもを預ける抵抗感別利用者自身の変化 下段：割合(%)

子どもを預ける抵抗感	変化なし	時間有効利用	地域に頼れる	精神的ゆとり	子どもがかわいい	成長実感	育児に安心感
強く・やや感じる n=297	6 4.5	58 43.9	60 45.5	54 40.9	83 62.9	47 35.6	12 9.1
あまり感じない n=350	5 2.1	148 61.9	142 59.4	151 63.2	165 69.0	130 54.4	30 12.6
全く感じない n=172	4 2.8	101 71.6	73 51.8	103 73.0	86 61.0	80 56.7	21 14.9
全 体	15	307	275	308	334	257	63

子どもを預ける抵抗感	保育者と話す	相談先得る	他の親と話す	友だち得る	預け先不満	分離不安	その他
強く・やや感じる n=297	37 28.0	18 13.6	6 4.5	6 4.5	4 3.0	10 7.6	13 9.8
あまり感じない n=350	79 33.1	52 21.8	23 9.6	15 6.3	4 1.7	3 1.3	8 3.3
全く感じない n=172	54 38.3	35 24.8	14 9.9	10 7.1	0 0.0	1 0.7	4 2.8
全 体	170	105	43	31	8	14	25

(4) 一時預かりの保育サービスの条件と子どもを預ける抵抗感

子どもを預ける抵抗感の高い群は、きょうだいや自分の用事のあるところを立地条件とする割合が高かった(表5-42)。

一時預かりの保育サービスの利用を決めるとき、最も大切にすることについて3つまでたずねたところ、最も大切にすることとして、どの群においても、「清潔・安全への配慮が行き届いている」「子どもが楽しく過ごせる」というものが多い傾向にあった(表5-43)。

また、子どもを預ける抵抗感の高い群は、最も大切にすることとして、「保育者がたくさんいて、一人ひとりにきめ細かく対応してくれる」「送迎時、子どもの様子をきちんと報告してくれる」「子

どもの不安を受け止めてくれる」というものが多くみられた。

子どもを預ける抵抗感の低い群は、最も大切にすることとして「短時間でも利用できる」「土日、祝日でも利用できる」が多くみられた。

個別の項目をみていくと、「知り合いの間で評判がよい」「短時間でも利用できる」「当日の申し込みでも受け入れてくれる」「清潔・安全への配慮が行き届いている」「子どもが楽しく過ごせる」「そこで過ごすことが、子どもの成長につながる」「保育者がたくさんいて、子ども一人ひとりにきめ細かく対応してくれる」「子どもの不安を受け止めてくれる」「送迎時、子どもの様子をきちんと報告してくれる」という項目においては、子どもを預ける抵抗感に関わりなく、どの群でも高い割合を示していた(表5-44)。

表5-42 子どもを預ける抵抗感別立地条件 下段:割合(%)

子どもを預ける抵抗感	立地条件							未回答・不明
	自宅から徒歩	駅やバス停近く	デパート・商店街内	きょうだいの用事の場所	自分の用事の場所	その他		
強く・やや感じる n=297	158 53.2	45 15.2	10 3.4	17 5.7	30 10.1	2 0.7	35 11.8	
あまり感じない n=350	191 54.6	55 15.7	24 6.9	5 1.4	21 6.0	11 3.1	43 12.3	
全く感じない n=172	89 51.7	26 15.1	5 2.9	4 2.3	10 5.8	3 1.7	35 20.3	
全 体	438	126	39	26	61	16	113	

表5-43 「大切にすること」と「子どもを預ける抵抗感」

子どもを預ける抵抗感	大切にすること												
	1 評判	3 利用前説明	4 短時間利用	5 長時間利用	6 土日祝利用	7 当日受け入れ	16 清潔安全	20 楽しい場	23 楽しみにする	24 細やかな対応	25 慣れた保育者	26 不安受け止め	27 送迎時報告
強く・やや感じる n=297	33 11.1	20 6.7	12 4.0	12 4.0	14 4.7	50 16.8	176 59.3	138 46.5	11 3.7	109 36.7	24 8.1	53 17.8	88 29.6
あまり感じない n=350	36 10.3	14 4.0	29 8.3	25 7.1	25 7.1	65 18.6	222 63.4	178 50.9	30 8.6	116 33.1	11 3.1	37 10.6	83 23.7
全く感じない n=172	17 9.9	15 8.7	20 11.6	11 6.4	21 12.2	19 11.0	94 54.7	85 49.4	12 7.0	40 23.3	15 8.7	18 10.5	39 22.7
全 体	86	49	61	48	50	134	492	401	53	265	50	108	210

*複数選択(3つまで)あり。*単純集計で割合が5%未満の項目は除いた。

表5-44 「条件」と「子どもを預ける抵抗感」 下段:割合(%)

子どもを預ける抵抗感	評判	短時間利用	長時間利用	土日祝利用	当日受け入れ	体験利用
強く・やや感じる n=297	244 82.2	245 82.5	178 59.9	184 62.0	254 85.5	129 43.4
あまり感じない n=350	281 80.3	278 79.4	247 70.6	257 73.4	300 85.7	121 34.6
全く感じない n=172	133 77.3	136 79.1	132 76.7	129 75.0	137 79.7	47 27.3
全 体	658	659	557	570	691	297

子どもを預ける抵抗感	市の関与	遊具	清潔安全	様子が見える	楽しい場	他児と遊べる
強く・やや感じる n=297	147 49.5	121 40.7	277 93.3	210 70.7	267 89.9	215 72.4
あまり感じない n=350	150 42.9	181 51.7	330 94.3	222 63.4	324 92.6	273 78.0
全く感じない n=172	65 37.8	85 49.4	156 90.7	95 55.2	152 88.4	135 78.5
全 体	362	387	763	527	743	623

子どもを預ける抵抗感	成長促す	楽しみにする	細やかな対応	不安受け止め	送迎時報告
強く・やや感じる n=297	209 69.0	196 66.0	223 75.1	218 73.4	260 87.5
あまり感じない n=350	249 71.1	252 72.0	269 76.9	249 71.1	311 88.9
全く感じない n=172	115 66.9	132 76.7	115 66.9	117 68.0	145 84.3
全 体	573	580	607	584	716

(5) 考察

まず、子ども預ける抵抗感については、「強く感じる」というものが非常に少なく、全体でも1.7%のみであった。それに対して、「やや感じる」というものは3割を超えることが明らかとなった。今回のデータは、半数以上を一時預かりパイロット事業の利用者が占めるという特性から子どもを預ける抵抗感が低くなったと考えられる。しかしながら、一時預かりの保育サービスに子どもを預けることに対して、確固たる信念から抵抗感を抱いているというのではなく、むしろ「3歳までは母の手で」といった、いわゆる三歳児神話などから派生する漠然とした子どもの成長への不安や、保育サービスへの理解のなさから、保護者たちは抵抗感を抱いているのではないかと考えられる。

また、子どもを預ける抵抗感と一時預かりの保育サービスに対する意識についてクロス集計を行なったところ、「子どもがかわいそうだと思う」「子どもを預けるのが不安だ」「子どもはできる限り自分の手で育てたいと思う」という項目について、強い関連がみられた。一方で、「利用について、実際に批判的なことを言われたことがある」という項目については、子どもを預ける抵抗感をまったく感じない群において、「全くあてはまらない」と答える割合が高く、抵抗感の高い群では、批判経験にあまり顕著な差はみられなかった。つまり、周囲から受ける外圧が、子どもを預ける抵抗感と強く関連するのではなく、保護者自身の内面にある心情や考え方が、子どもを預ける抵抗感に強く関わっているものと考えられる。保護者自身の親としての役割規範が非常に強いために、子育て以外のことをする罪の意識を抱いたり、全部自分一人で抱え込んでしまったりという心性に向かっているのではないかと推察される。

次に、子どもの変化と子どもを預ける抵抗感との関連である。子どもを預ける抵抗感が高い群は、子どもの変化をネガティブにとらえる傾向があ

るのに対し、子どもを預ける抵抗感が低い群は、子どもの変化をポジティブにとらえる傾向があった。このことに関しては、利用者からみて子どもにポジティブな変化があったから、子どもを預ける抵抗感が低くなったのか、それとも、もともと預ける抵抗感が低いがために、子どもの変化をポジティブに受け止める傾向にあったのかという、その因果関係については把握できない。しかし子どもを預ける抵抗感が低い群の方が、子どもの変化を肯定的に受け止めている事実からも、一時預かり事業においても、保護者の子どもを預ける抵抗感を低くするような保育の質を、人的にも物的にも確保していく必要があると思われる。

さらに、自身の変化と子どもを預ける抵抗感との関連については、「変化なし」という割合がどの群においても低いことが明らかになった。良きにつけ悪しきにつけ、利用者自身の中では、いろいろな変化が起こっているということになる。特に子どもを預ける抵抗感の低い群では、「時間が有効に使えるようになった」「地域に頼れるところがあると思えるようになった」「困った時に、相談する人ができた」というポジティブな変化を指摘する傾向にあった。子どもを預ける抵抗感が低いということは、すなわち他者に子どもを預けることを素直に受け入れるということであり、子どもの預かり手である保育者に信頼を寄せることでもある。そうしたことから、保育者が「地域で頼れるところ」であり、「相談できる人」となりうるものと考えられる。一方、子どもを預ける抵抗感が高い群は、「子どもと離れることに不安が強くなった」という項目で若干高い傾向にあった。このことに関しても、先と同様に、子どもを預ける抵抗感が高いから、子どもと離れることに不安が強くなったのか、あるいはその反対のベクトルかということは定かではない。子どもを預けることに対して、何が保護者の不安を促進するのかを、今後明らかにしていく必要がある。

一時預かりの保育サービスの条件と子どもを

預ける抵抗感との関連については、立地条件では、子どもを預ける抵抗感の高い群は、きょうだいや自分の用事の場合で高い割合を示した。なるべく預ける時間を短くしたい、という思いの表れであると考えられる。また、もっとも大切にすることについて、「清潔・安全への配慮が行き届いている」「子どもが楽しく過ごせる」という項目については、抵抗感に関係なく高い割合を示し、親の抵抗感の程度に関わらず、多くの親は子どもが安心して、楽しく過ごせることが第一と考えていることがうかがえた。さらに、子どもを預ける抵抗感が高い群は、「保育者がたくさんいて、子ども一人ひとりにきめ細かく対応してくれる」「子どもの不安を受け止めてくれる」「送迎時、子どもの様子をきちんと報告してくれる」という項目で

個別の項目との関連においても、子どもを預ける抵抗感の強い群は「子どもが慣れるための体験利用がある」「市が関わっている」「子どもたちの様子がわかる」などが多い傾向にあり、子どもだけでなく保護者自身も保育の場や雰囲気慣れ、保育中の子どもがどのように過ごしているのかを理解し、信頼できる材料を得ることによって自分自身も安心したいのではないかと考えられた。子どもを預ける抵抗感が低い群では、「長時間でも利用できる」「土日、祝日でも利用できる」といった保育サービスのシステムについてだけでなく、「子どもが他の子どもと一緒に遊べる」「子どもが楽しみにしている」という項目で高い割合を示し、子ども自身が保護者から離れ、様々な人との出会いや体験ができることを評価しているように感じられた。

表5-45 パイロット事業利用回数

	件数(%)
1回	49(15.0)
2~4回	78(23.9)
5~9回	48(14.7)
10回以上	121(37.1)
未回答・不明	30(9.2)
総数	326(100.0)

*パイロット事業利用を2種類挙げている場合が2件(保育ステーションの一時預かりと月極め等)あったが、いずれも、一時預かりの利用頻度を集計に含めた。

高い割合を示していた。保護者である自分がいない間、いかに不安がる子どもに対応してくれるか、自分が戻った時に、いかに保育中のことを適切に報告し、大変な親子分離の時間を補償してくれるかが重要視されており、そのことによって、子どもの不安だけでなく、保護者自身の不安な感情も軽減させたいのではないかと考えられた。また子どもを預ける抵抗感が低い群では、「短時間でも預かってくれる」「土日、祝日でも預かってくれる」という項目で高い割合を示していた。子どもを預ける抵抗感が少ないため、保護者や子どもの不安に対応するというよりも、保育サービスのシステムについて要求するものと考えられた。

5. 一時預かりパイロット事業の利用回数と効果について

(1) 一時預かりパイロット事業の利用回数について

一時預かりパイロット事業のみ利用者326名の利用回数を示した。1回のみ利用者は15%にとどまり、2~4回で23.9%、10回以上で37.1%となっている(表5-45)。

(2) 子どもを預ける抵抗感と利用回数

1回及び2~4回の利用回数の群では、子どもを預ける抵抗感が「強く・やや感じる」とする割合が高い。一方で10回以上利用している群においては、子どもを預ける抵抗感を「全く感じない」とする割合が高くなっている(表5-46)。

(3) 子どもの変化と利用回数

利用回数が1回及び2~4回の群では、子どもの変化について「変化なし」とする割合が高いが、10回以上の群では「変化なし」と回答する割合は少なく、「遊具で楽しく遊べるようになった」「保

育者になつくようになった」「他の子どもに興味を示すようになった」「子ども同士で遊べるようになった」「保育中のことを、後でよく話すようになった」「できなかったことができるようになった」という項目において、高い傾向を示している(表5-47)。

(4) 利用者自身の変化と利用回数

利用者自身の変化については、どの利用回数の群も、「変化なし」と回答するものは非常に少なかった。利用回数が1回の群では、「子どもと離れることに不安が強くなった」が若干みられるものの、10回以上の群では、そうした回答はみられなかった。2~4回の群では、「地域に頼れるとこ

ろがあると思えるようになった」という回答が多い傾向にあり、10回以上の群では、「時間を有効に使えるようになった」「精神的なゆとりが持てるようになった」「子どもの成長を感じることができた」「保育者と子どものことを話すことができた」「困った時に、相談する人ができた」という割合が高い傾向にある。

特に変化がみられなかった項目は、「迎えに行った時、改めて子どもをかわいいと思えた」「ほかの子どもを見ることによって、子育てに安心感が持てた」「ほかの保護者と話す機会が増えた」「地域に新しい友だちができた」「預け先に不満が残った」というものであった(表5-48)。

表5-46 利用回数別子どもを預ける抵抗感 下段:割合(%)

パイロット事業 利用回数	子どもを預ける抵抗感			
	強く・ やや感じる	あまり 感じない	全く感じない	未回答・ 不明
1回 n=49	21 42.9	23 46.9	5 10.2	0 0.0
2~4回 n=78	24 30.8	43 55.1	11 14.1	0 0.0
5~9回 n=48	8 16.7	26 54.2	14 29.2	0 0.0
10回以上 n=121	12 9.9	61 50.4	46 38.0	2 1.7
全 体	65	153	76	2

表5-47 利用回数別子どもの変化 下段:割合(%)

パイロット事業 利用回数	変化なし	遊具遊ぶ	保育者に なつく	他児に興 味	他児と遊 ぶ	後で話す	食欲
1回 n=49	20 40.8	10 20.4	7 14.3	12 24.5	6 12.2	4 8.2	2 4.1
2~4回 n=78	19 24.4	19 24.4	21 26.9	25 32.1	19 24.4	12 15.4	3 3.8
5~9回 n=48	10 20.8	18 37.5	20 41.7	23 47.9	16 33.3	16 33.3	3 6.2
10回以上 n=121	5 4.1	60 49.6	65 53.7	74 61.2	66 54.5	36 29.8	12 9.9
全 体	54	107	113	134	107	68	20

パイロット事業利用回数	良眠	成長	甘え	泣き	疲れ	体調不良	その他
1回 n=49	6 12.2	5 10.2	11 22.4	2 4.1	5 10.2	1 2.0	3 6.1
2～4回 n=78	10 12.8	15 19.2	13 16.7	4 5.1	11 14.1	2 2.6	7 9.0
5～9回 n=48	11 22.9	12 25.0	8 16.7	1 2.1	3 6.2	2 4.2	4 8.3
10回以上 n=121	29 24.0	45 37.2	17 14.0	2 1.7	18 14.9	8 6.6	19 15.7
全体	56	77	126	9	37	13	33

表5-48 「自身の変化」と「一時預かりパイロット事業利用回数」 下段:割合(%)

パイロット事業利用回数	変化なし	時間有効利用	地域に頼れる	精神的ゆとり	子どもがかわいい	成長実感	育児に安心感
1回 n=49	1 2.0	24 49.0	26 53.1	24 49.0	30 61.2	14 28.6	4 8.2
2～4回 n=78	1 1.3	39 50.0	58 74.4	43 55.1	56 71.8	36 46.2	11 14.1
5～9回 n=48	0 0.0	32 66.7	26 54.2	31 64.6	30 62.5	27 56.2	8 16.7
10回以上 n=121	1 0.8	90 74.4	66 54.5	84 69.4	88 72.7	79 65.3	19 15.7
全体	3	185	176	182	204	156	57
パイロット事業利用回数	保育者と話す	相談先得る	他の親と話す	友だち得る	預け先に不満	分離不安	その他
1回 n=49	12 24.5	5 10.2	4 8.2	2 4.1	0 0.0	4 8.2	4 8.2
2～4回 n=78	21 26.9	11 14.1	4 5.1	3 3.8	1 1.3	1 1.3	4 5.1
5～9回 n=48	17 35.4	13 27.1	6 12.5	6 12.5	1 2.1	2 4.2	0 0.0
10回以上 n=121	60 49.6	31 25.6	15 12.4	12 9.9	1 0.8	0 0.0	6 5.0
全体	110	60	29	23	3	7	14

(5) 考察

パイロット事業の利用回数が1回という回答が、利用者全体の15%であったという結果は、一時預かりパイロット事業を利用した親子の多くは、リピーターとして何度も利用することが多いことを示している。

一時預かりパイロット事業の利用回数が1回の群は、子どもを預ける抵抗感を強く感じる傾向にあったが、利用回数が10回以上の群では、子どもを預ける抵抗感は低い傾向にあった。一時預かりパイロット事業の利用を何度も積み重ねるご

とに、子どもも利用者自身も保育の場に慣れ、抵抗感が低くなるのではないかと考えられた。あるいは、子どもを預ける抵抗感がもともと低い人が、継続して利用しているとも考えられる。

また、子どもの変化についても、利用回数が1回の群では「変化なし」という割合が高いが、10回以上の群では「変化なし」と答える割合は低くなっていた。継続的に一時預かりパイロット事業の保育の場や保育者と関わることで、子どもの姿が少しずつ変化し、その変化が次第に目に見えるようになってくるのではないかとと思われる。特に、

利用回数が10回以上の群では、「遊具で楽しく遊べるようになった」「保育者になつくようになった」「他の子どもに興味を示すようになった」という保育の「場所」や「保育者」「他の子ども」に慣れていく様子が報告され、回数を経ることで子どもも安心して一時的な保育のひとつを過ごしているのがうかがえる。また「保育中のことを、後でよく話すようになった」「できなかったことができるようになった」という回答も高く、保育の場では保護者と離れていても楽しく過ごせ、新たな体験を積み重ねていること、そのことを利用者は子どものポジティブな変化としてとらえ評価しているものと思われる。

さらに、自身の変化については、一時預かりパイロット事業のどの利用回数の群も「変化なし」と答える割合は非常に低く、一時預かりパイロット事業を利用することで、利用者自身にも何らかの変化がもたらされているものと考えられる。変化の内容については、利用回数が1回の群では、「子どもと離れることに不安が強くなった」という回答が若干見られたものの、利用回数が多い群では、そのような回答は見られなくなっている。初めての利用において「子どもと離れることに不安が強くなった」利用者は、一時預かりパイロット事業を利用しなくなっていくのか、あるいは利用回数が増えると、子どもから離れる不安も軽減されていくのか、今後、更なる検証が必要であると思われる。また一時預かりパイロット事業の利用回数が2~4回の群で「地域に頼れるところがあると思えるようになった」という割合が他よりも高くなっている。今までなかなか安心して子どもを預けることができなかった利用者が、一時預かりパイロット事業の利用を通して、ようやく地域の中に頼ることができるところを見つけ、安堵している姿がうかがえる。さらに利用回数が10回以上の群では、「時間を有効に使えるようになった」「精神的なゆとりが持てるようになった」「子どもの成長を感じるようになった」「保育者と子どものことを話すことができた」「困った時

に、相談する人ができた」という割合が高くなっていた。親子ともに離れていても安心して過ごせる時間を持つことで、利用者の中にも精神的・物理的なゆとりが生まれ、密着しがちな親子関係に少し距離を置けるようになり、そのことから子どもの成長を感じられるようになるのではないかと考えられる。また継続して利用することで、利用者や保育者が話す機会も増え、目の前の同じ子どもについて話し合うことで、さらに客観的に子どもの成長を捉えられるようになるとも考えられる。またそのような保育者と利用者との関係性の積み重ねが、「困った時の相談役」として位置づき始めているのではないかとと思われる。

このことから、一時預かりパイロット事業における継続的な利用は、今回の調査では、総じて、ポジティブな変化を親子ともにもたらしているといえよう。

最後に、今回の調査では「迎えに行った時、改めて子どもをかわいいと思えた」という回答が、一時預かりパイロット事業の利用回数にかかわらず、どの群でも6割を超えていた。たとえわずかな時間であっても、親子が離れ、再会することで「子どもがかわいい」と再認識できることは、大きな意義があると思われる。それぞれの親子にとって、最も心地よい距離のとり方を模索しつつ、「子どもがかわいい」と繰り返し思える機会を保障し、親子関係の調整を図っていくことも重要な援助ではないかと考えられる。

第3節 まとめと今後の課題

本調査の結果から、在宅子育て家庭においても、子どもを一時的に預けたいというニーズが高いことが改めて示された。特に一般的な家庭の全体的傾向を映し出すと考えられる健診調査では、約8割を超える一時的な保育への希望がありながらも、実際に利用したことのある保護者は3割に満たないという結果が得られた。こうしたことから、居住年数が少ない保護者や第一子の子どもの

年齢が小さい保護者などに対して、また自ら意識的に情報収集をしない保護者に対して、積極的な情報発信を行っていくことが重要となる。

一時預かりパイロット事業の利用回数との関連では、初回利用者よりも2回以上利用するリピーターが多いことが明らかとなり、子どもの変化についても、利用回数が1回の群よりも10回以上の群において、遊具で楽しく遊べたり、保育者になついたり、他の子どもに興味を示したりしている様子が報告されていた。つまり利用回数を経ることで子どもも安心して一時的な保育のひとつを過ごしていること、そのことを利用者は子どものポジティブな変化としてとらえていることが明らかとなった。利用者自身の変化についても、10回以上の群で、時間の有効利用、精神的ゆとり、子どもの成長の実感、保育者と子どものことを話せる、困った時の相談先を得ると答えるものが多く、このことから、一時預かり事業の継続的な利用は、総じて、ポジティブな変化を親子ともにもたらすといえる。また利用回数や子どもを預ける抵抗感に関わらず「迎えに行った時、改めて子どもをかわいいと思えた」という回答が多くみられた。パイロット事業の利用理由に関わらず、子どもを預けることで「子どもがかわいい」と再認識できることは、一時預かり事業の利用によって親子関係を調整していく効果も期待されることである。

また今回の調査では、約3割の保護者が、子どもを預ける抵抗感について「強く・やや感じる」と回答しており、その抵抗感は、「子どもがかわいそうだと思う」「子どもを預けるのが不安だ」「子どもはできる限り自分の手で育てたいと思う」という意識と関連していた。また、子どもを預ける抵抗感と一時預かりの保育サービスにおける子どもの変化及び自身の変化との関連では、子どもを預ける抵抗感の高低によって、変化のとらえ方に差がみられた。子どもを預ける抵抗感の低い群の方が、子どもの変化、自身の変化ともにポジティブにとらえる傾向にあった。

これらのことから、一時預かり事業における保育の質を人的・物的両側面から確保することは、保護者の抵抗感を低くすること、ひいては事業の促進と密接につながっていると見える。また、そもそも子育てを保護者一人で抱え込まないこと、むしろ困った時は自分の家族や知り合い以外にも助けを求める手段があること、子どもはたくさん大人や子ども同士のかかわりを通して育っていくこと、その際に必ずしも保護者が同じ空間にいらなくてもよいことを、さらに啓発していくことも重要である。乳幼児健診やこにちは赤ちゃん事業などを通して、各家庭に直接、その具体的な援助の資源として、一時預かり事業が提示されていくことも求められよう。そのためには、一時預かり事業そのものが、関係機関と連携を取りながら、地域にしっかりと根づいていくことも欠かせない視点である。

一時預かり事業は、保護者にとって柔軟で使いやすいサービスであることが期待されていた。しかし一方で、保護者が最も大切にしていることは、こうした利便性に関するのではなく、保育の環境や保育内容の質に関することであった。中でも一時預かりの保育サービスを利用したことのない保護者が望むことは、「実際にどのような保育をしているかがわかること」であり、子どもに対するきめ細やかな対応や子どもの不安を受けとめることであった。それに対して、一時預かりの保育サービスを利用したことのある保護者は、土日祝日や長時間利用などのシステムに関することをはじめ、子どもが楽しく過ごせ、楽しみにすること、子どもが慣れている保育者がいることを利用の選択基準とする傾向にあった。また子どもを預ける抵抗感と一時預かりの保育サービスの選択基準との関連からも、子どもを預ける抵抗感が高い群は、子どもに対するきめ細かな対応や、子どもの不安の受けとめ、送迎時の報告、体験利用、市の関与、子どもたちの様子がわかることなどを求める傾向にあることがわかった。このことから、一時預かりの保育サービスを利用する最初

の時期は、特に保育内容についての理解が深まるよう援助することや、子どもだけでなく利用者と保育者との関係を丁寧に構築していくことが必要であると考えられる。清潔・安全などをはじめとする保育の質の確保はもちろんのこと、子どもだけでなく保護者自身の不安も受けとめる基本姿勢を維持しつつ、親子との信頼関係を築くことが重要な視点となるであろう。保育の場や保育者自身が信頼されるよう一時的な保育の特性を踏まえた保育の質の向上に努めることが重要であると考えられる。

今後の課題として、子どもを預けることに対し、どの段階でどのように保護者の抵抗感が強くなるのか、また不安が促進されるのかを、インタビュー調査などから詳細に検討していく必要がある。また利用回数が1回の群では、「子どもと離れることに不安が強くなった」という回答が若干見られた。初めての利用において「子どもと離れることに不安が強くなった」利用者は、一時預かりパイロット事業を利用しなくなっていくのか、あるいは利用回数が増えると、子どもから離れる不安も軽減されていくのか、今後、更なる検証が必要であると思われる。さらにニーズを持つて支援の場に現れた人をどのように受けとめれば継続的に関わっていけるのかを検討していくことも、今後利用を促進する上では欠かせない課題であると思われる。

(本章担当：高辻千恵、中谷奈津子)

「お子さんを誰かに預かってほしい」と思うことがありますか？

この調査は、子育て中の保護者の方の「子どもを預かってほしいけれど、預ける先がない」、「預けても大丈夫か不安」などの気持ちや実態、実際にお子さんを預けた時の感想をお聞きして、今後国で制度化が予定されている「一時預かり事業」が皆さんにとって利用しやすいものとなるように、その望ましいあり方を検討するために行うものです。回答は統計的に処理をし、回答された方のプライバシーに関しご迷惑をかけることはありません。

厚生労働科学研究「一時預かり事業のあり方に関する調査研究」班

問い合わせ先：子どもの領域研究所 尾木まり（研究代表者）

電話：03-3714-1419 Fax:03-3712-8513 E-Mail: child_domain@nifty.com

問1 お子さんを誰かに預かってほしいと思うことがありますか（○は1つ）。

1. よく思う 2. 時々思う 3. あまり思わない 4. 全く思わない

問2 ふだんの生活において、次のような時、どなたがお子さんを預かってくれますか。

下の枠内の選択肢から、あてはまる番号すべてを記入してください。

- (1) 急用や大事な用があるとき 【 , , , , , , 】
 (子どもを連れて行けないとき)
- (2) まとまった買い物や用事で出かけるとき 【 , , , , , , 】
 (子どもを連れて行けないわけではないが、連れて行かない方がよいとき)
- (3) 自分の遊びやリフレッシュのとき 【 , , , , , , 】
 (子どもを連れて行かない方がよいとき)

- | | | | |
|--------------|--------------------------------------|--|----------------|
| ①配偶者・パートナー | ②自分の父 | ③自分の母 | ④配偶者・パートナーの父 |
| ⑤配偶者・パートナーの母 | ⑥自分や配偶者のきょうだい | ⑦その他の親族 | ⑧友人 |
| ⑨近所の知人 | ⑩職場の人 | ⑪保育所（一時保育を含む） | ⑫幼稚園（預かり保育を含む） |
| ⑬ほっとする一む東松戸 | ⑭⑬ほっとする一む東松戸以外の一時預かりの保育サービス（施設での預かり） | ⑮一時預かりの保育サービス（ファミリーサポート、ボランティア、ベビーシッターなど在宅での預かり） | |
| ⑯その他 | ⑰そのような人はいない | | |

*注 これ以降の質問での「一時預かりの保育サービス」とは上の⑬、⑭、⑮を含みます。

問3 あなたは、一時預かりの保育サービスを利用することに抵抗を感じますか（○は1つ）。

1. 強く抵抗を感じる 2. やや抵抗を感じる 3. あまり抵抗を感じない 4. 全く抵抗を感じない

問4 あなたは、一時預かりの保育サービスを利用することについてどのように思いますか。

それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
①子どもに良い影響があると思う	1	2	3	4
②子どもがかわいそうだと思う	1	2	3	4
③子どもはできる限り自分の手で育てたいと思う	1	2	3	4
④子どもに悪影響を及ぼすのではないかとと思う	1	2	3	4
⑤子どもを預けるのが不安だ	1	2	3	4
⑥自分は、初めての人や場所は苦手だ	1	2	3	4
⑦利用することで、周囲からどう思われるか不安だ	1	2	3	4
⑧他の親子と接したくない	1	2	3	4
⑨利用について、実際に批判的なことを言われたことがある	1	2	3	4
⑩一時預かりの保育サービスの条件が合わない	1	2	3	4
⑪そもそも一時預かりの保育サービスについてよく知らない	1	2	3	4

問 10 一時預かりの保育サービスの条件についてお聞きします。

(1) あなたが利用するとしたら、利用料金はいくらくらいがいいですか。()内に数字を記入してください。

1時間あたり()円

(2) 最も望ましい立地条件を以下の選択肢から選んでください(○は1つ)。

1. 自宅から徒歩で行ける場所 2. 駅やバス停の近く 3. デパートや商店街の中
4. 子どものきょうだいの用事があるところ(学校、保健センター、病院など)
5. 自分の用事があるところ(役所、病院など) 6. その他()

(3) あなたは、一時預かりの保育サービスを利用するなら、どのようなところを利用したいですか。

1) あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

<情報について>

- 1 知り合いの間で評判が良い
- 2 いろいろなところで情報が公開されている(ホームページや広報、チラシ、看板など)
- 3 利用前にていねいに説明してくれる

<システムについて>

- 4 短時間でも利用できる
- 5 長時間でも利用できる
- 6 土日、祝日も利用できる
- 7 当日の申し込みでも受け入れてくれる
- 8 定員の制限がない
- 9 子どもの年齢に関係なく利用できる
- 10 初めて利用する時は料金が安くなる
- 11 子どもが慣れるための体験利用がある
- 12 市が関わっている
- 13 子どもが病気のときや治りかけのときに利用できる
- 14 障害のある子どもも利用できる

<保育環境について>

- 15 遊具やおもちゃがたくさんある
- 16 清潔・安全への配慮が行き届いている
- 17 つどいの広場など、子どもが行き慣れている場所にある
- 18 子どもたちの様子がわかる(外から様子が見える、見学できるなど)
- 19 自分自身(保護者)が他の人と接することができる

<子どもについて>

- 20 子どもが楽しく過ごせる
- 21 子どもが他の子どもと一緒に遊べる
- 22 そこで過ごすことが、子どもの成長につながる
- 23 子どもが楽しみにしている

<保育者について>

- 24 保育者がたくさんいて、一人ひとりにきめ細かく対応してくれる
- 25 子どもが慣れている保育者がいる
- 26 子どもの不安を受け止めてくれる
- 27 送迎時、子どもの様子をきちんと報告してくれる
- 28 育児相談ができる
- 29 親の育児の大変さを理解してくれる

2) 上記のうち、あなたが一時預かりの保育サービスの利用を決めるとき、最も大切にすることを3つまで選び、番号を記入してください。() () ()

*ほかにも大切にすることがある場合は、最後の自由記述欄にお書き下さい。